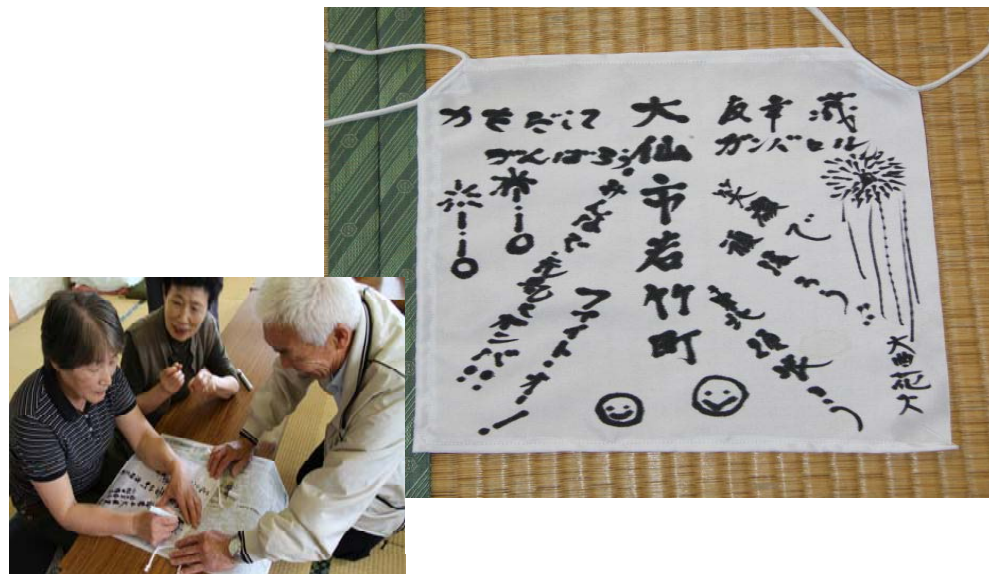


平成25年度 大仙市内中学校における



「被災地交流」の記録

(ダイジェスト版)



平成25年11月

大仙市教育委員会教育指導課

《 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 》

大仙市教育委員会 教育指導課



本事業でねらう3本の柱

- 「自分の命を自分で守る子ども」の育成
- 小・中学生によるだいせん絆プロジェクト
- 自主防災組織づくりから広げる地域力の向上

防災教育に関わる市内小・中学校の主な取組 【これまでの取組】



～ I・支援と交流 ～

- ①被災地支援
＜全小・中学校＞
・募金・米・文房具などの送付
- ②被災地訪問による交流
＜大曲中・太田中・平和中＞
・部活動交流、グランドゴルフ、だまこ汁の提供、清掃奉仕活動、プランター花のプレゼント
- ③中学生サミットによる支援
・ヘルメットや図書の寄贈、被災地訪問による交流と学習会

～ II・国や市の事業 ～

- ①H23福島っ子との交流事業
＜市内5小学校、3地域＞
・冬祭りへの参加や音楽交流、郷土料理体験
- ②H23.24復興教育支援事業
(文部科学省指定)
＜大曲中＞
・創作花火の打ち上げやプランター花のプレゼント
- ③市総合防災訓練への参加
＜中仙地域、南外地域＞

～ III・計画等の整備 ～

- ①「学校安全計画」「危機管理マニュアル」「防災教育年間指導計画」等の整備
・整備の実態把握と改善
- ②「大仙市版・避難所開設マニュアル」の提供
・総合防災課との連携による計画立案
- ③各学校における緊急連絡体制の整備
・携帯電話等による電子メール配信システム整備

【課題】

- ★地域及び関係機関と連携した避難訓練の実施
- ★避難所開設の初期対応及び二次対応の研修
- ★各校における「危機管理マニュアル」等の内容の充実

【今後の方向性】平成25年度の計画

～ I・支援から交流へ ～

- 被災地との交流の継続
- ・大曲中⇄大船渡市立赤崎中
 - ・平和中⇄大槌町(仮設住宅)
 - ・太田中⇄大槌町立大槌中
 - ・中仙中⇄気仙沼市立小原木中
 - ・南外小・中⇄南三陸町志津川方面
 - ・仙北中⇄釜石方面

～ II・市の事業 ～

市総合防災訓練への参加
協和地域(協和小・協和中)

**だいせん防災教育
「生き抜く力育成」事業**

～ III・計画等の整備 ～

「危機管理マニュアル」等の見直しと改善

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業



実施予定日	平成25年9月17日(火)
実施場所	大仙市立平和中学校
参加者	平和中学校全校生徒(124名)及び教職員(20名) 地域自主防災組織代表住民(30名程度) 市内11中学校生徒代表(20名)及び教職員(10名) 消防署等の関連機関
主催	大仙市教育委員会教育指導課及び総合防災課 *総参加者数の見込み220名

～主な活動～

- ①生徒避難
- ②避難所開設
- ③地域住民避難
- ④避難所運営
- ⑤炊き出し
- ⑥避難所宿泊体験

- ・モデル校の実践として、地震発生時の避難訓練、避難所開設に関わる初期対応の実際を体験する
- ・地域住民との防災訓練及び体験を通して、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付ける
- ・モデル校の実践に中学生サミットや市内教職員が参加することにより、市内各地域の自主防災に対する意識の高揚を図る

事業による成果を生かす

「総合的な学力」を身に付けた児童生徒の育成に “つなげる”
神岡地域の自主防災モデル実践の成果を市内全域に “広げる”

小・中学生が主体的に社会参画する地域づくりへ

《 大曲中学校 》

〔4月〕震災から2年と1ヶ月 平成25年 大曲中学校 未来へ羽ばたく躍動の幕開け

「復興教育支援交流活動」として3年目の活動が開始されました。

赤崎中支援交流プロジェクト 2013

〔6月〕震災から2年と3ヶ月 3年目（交流活動8回目）の赤崎中支援交流活動がスタート

「赤崎中のみんなと共に元気になろう」

「大曲中と赤崎中を花で飾ろう」という生徒会交流活動が、今年もスタート！



400個のプランターに
ベゴニアの苗植えです

大曲中全校生徒会の新たな取り組み

??? 花の苗や土など、交流活動の経費を自分たちの手でどうにかならないか？

そうだ

全校生徒で古紙回収運動をしよう！

その益金で！交流活動を広げよう

…で始まった古紙回収運動



全校生徒七二三名。一人が月に1kgを持ってきたとする
 と…半年で4338kg
 力を合わせるとスゴイ！

5/30（木） 8回目の赤崎中学校との交流活動

あいにくの雨模様でしたが、プランター苗植えには、天からの恵み！



赤中生から力強い「赤中ソーラン踊り」が披露されました。曲中生はその迫力に圧倒されっぱなし！



お互いの健闘を誓い合っのエールの交換 「フレイ！フレイ！赤中」「フレイ！フレイ！曲中」



【10月】震災から2年と7ヶ月 今年度2回目（通算9回目）の交流は、赤中だけではなく赤崎地区へとその輪が広がられていきました！

10/3（木） 赤崎地区復興支援交流活動

今回は、3年生110名と若竹町内会の19名、13名の先生たちが活動しました。



赤崎地区 大立仮設住宅では、主に清掃活動を通しての交流ができました。



赤崎地区 後ノ入仮設住宅では、合唱披露を通して交流することができました。



赤崎地区町民運動会は震災後中止になっていましたが、10月13日に2年ぶりに行われます。曲中生と若竹町のみなさんが運動会の再開を祝って手作りの万国旗を作成しました。



赤崎公民館において作成。 町民運動会に彩りを添えられるように一生懸命がんばりました。若竹町内会のみなさんも思いを込めて、メッセージを綴りました。



町内会も一緒に



赤崎公民館 金野館長さんへ心をこめて手渡しました。



4曲を聴いてもらいました。最後は「ふるさと」をみんなで合唱することができました。



お年寄りの方々とたくさんお話することができました。

『吉里吉里に満開の笑顔を咲かせよう！』

大仙市立平和中学校生徒会

1. 被災地支援グラウンドゴルフ大会

平和中学校生徒会では、昨年につき、岩手県大槌町で「第2回大槌・神岡交流グラウンドゴルフ大会」を開催しました。

5日（木）、6日（金）の1泊2日の日程で3年生51名と1年生37名（1年生は日帰り）、運転手さん4名、そして本校職員10名の総勢102名が、バス3台、運搬車両2台、緊急車両1台に分乗し、大槌町吉里吉里地区を訪問しました。

「物の支援より心の支援を」と吉里吉里地区の仮設住宅に暮らす方々とグラウンドゴルフを通じて交流しようという私たちの思いが、神岡や吉里吉里の方々の協力を得て「第2回大槌・神岡交流グラウンドゴルフ大会ー吉里吉里に満開の笑顔を咲かせようー」として開催されました。



東日本大震災から2年半が過ぎましたが、大槌の街には大きな変化は見られません。初めて見る被災地の荒れ果てた姿に私たち生徒の表情も複雑です。五城目町の方々が贈った献花台の（役場）前で学級の代表が花を供え、黙祷を行い、吉里吉里中に向かいました。



昨年10月に表面を剥いで客土した吉里吉里中学校の白い仮設グラウンドは、昨夜からの雨にも水たまり一つありません。吉里吉里地区の方々は、午前中まで断続的に降り続く強い雨に大会の開催をかなり心配していたようです。しかし、到着する前には雨もすっかり上がり、天も私たちに味方してくれたようです。昨年からお世話になっている吉里吉里第五仮設住宅の芳賀廣喜自治会長も駆けつけてくれており、やっぱり雨が心配だったと話してくれました。

開会式には、吉里吉里地区の仮設住宅だけでなく、長寿クラブの方々にも声をかけていただいたおかげで大槌地区や波板地区からも30名を超える方々においでいただきました。昨年の反省から、今年はそれぞれの仮設住宅にマイクロバスが向かって送迎に当たることにしました。昨年優勝した山崎善右衛門さんや今年から公民館長になられた芳賀博典さんの姿も見えます。昨年と同じように颯爽とマイクラブを持参して参加してくれたおばあさんもいました。開会に先立ち、神岡小の児童の皆さんから託されたティッシュペーパーカバーを贈りました。



開会式の後、いよいよ8ホール、2コースでゲームが始まりました。荒屋地区の老人クラブの方々から手ほどきを受けた私たちは自信をもって、同じグループになった方々と笑顔でゲームを進めていきます。孫と一緒にプレーしているようだとされたり、手を取って指導したりしている3年生の姿もあります。1年生も頑張りました。今年は杖をつけて参加した山崎さんのために休憩用の椅子を持って廻ったり、膝の痛いお年寄りのために替わりにマーカーを置いたり、ボールを拾ったりしている1年生の姿も見えます。プレーしないで見学しているおばあさんとずっと話し相手になった執行部員の姿も見られました。ほとんどが初対面のお年寄りの方々なのに、生き生きと笑顔で会話することができました。



山崎さんの連覇はなりませんでしたが、今年は倉本サタさんが21打で優勝しました。長寿クラブ会長の藤原ミネ子さんから「来年も一人も欠けることなくこの大会に参加しよう。」との挨拶があり、思わず涙をこぼす人もいました。この後、仮設住宅に帰るお年寄りの手を引いて一緒に階段を上る3年生の優しい様子が見られました。

「自分たちにできることを何かしたい。」という思いを強く抱いて、被災した方々との交流を願い、この企画を始めてくれた昨年度の先輩達の思いを引き継ぎ、今年はさらに「誰かのために」頑張る、「被災地の方々のために」頑張る、「地域のために」自分たちにできることを頑張るという私たち3年生徒会のまた新たな一歩が始まりました。



2. 工夫したことや達成したこと、その過程で苦労したこと

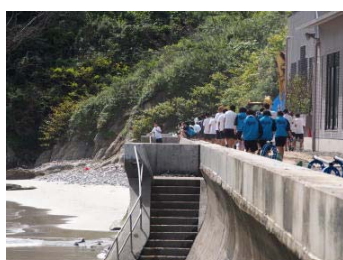
釜石自動車道の東和 I C から宮守 I C までの 23.7K m が開通したため、以前より 20～30 分早く 3 時間半ほどで大槌町に到着することができました。大槌町は家の土台の間から伸びた雑草に覆われて緑一面の景色でしたが、あちらこちらで重機がうなりを上げ、コンクリートの土台を壊している様子が見られました。街全体をかさ上げする工事がいよいよ始まったのだそうです。魚市場付近の岸壁でも以前より高い防波堤の建築が始まっています。

この後訪れた岩手県立陸中海岸青少年の家は、大槌町を越えたすぐの高台にありました。震災時には避難所になったそうであるいと参考になるアドバイスが得られました。また、ここには津波で一階が完全に浸水し、ほとんどが流失した山田町立船越小学校が間借りしています。青少年の家のグラウンドには万国旗が飾られ、翌日が運動会ということでした。ここでも元気いっぱいの児童たちの挨拶が聞かれました。



最後に芳賀廣喜さんと吉里吉里中学校の柳田校長先生にお会いしましたが、本校がこうした活動を続けて行っていることに本当に感謝してくれていました。

生徒会が昨年度から、「物の支援よりも心の支援を」と岩手県大槌町立吉里吉里中学校仮設グラウンドで仮設住宅に暮らす方々に笑顔をお届けしようと始めたグラウンドゴルフによる交流ですが、私たちにとっては一度もしたことの無いグラウンドゴルフだったので、今年も地元の荒屋老人クラブの方々をお願いして指導していただきました。



3. 活動の結果、地域に起こった変化や周りの反響

被災地の現状を自分の目で確かめ、仮設住宅に暮らす方々と交流することによって、命の大切さ、今生きていることの素晴らしさ、当たり前のことが当たり前でできることのありがたさを感じることができました。

今回の「第 2 回大槌・神岡交流グラウンドゴルフ大会」開催に際しては、保護者をはじめ神岡地域の方々からその趣旨に賛同いただき、快くご協力いただきました。また、大会の開催にあたり神岡地域の多くの事業所に協賛をお願いしたところ、ポスターの掲示や賞

品の提供に快く応じていただきました。活動への協力など多方面から支援を頂戴いたしました。

今回協力いただいた事業所には、礼状を差し上げました。



4. 被災地支援を通じて学んだこと、感じたこと

当たり前のことが当たり前でできることのありがたさを実感するとともに、ふるさと神岡を見つめ直す機会になりました。

「第 2 回大槌・神岡交流グラウンドゴルフ大会」の開催と同時に、神岡で何か起こったときに「自分たちには何ができるのか」を考え始めました。働き盛りの大人の多くは日中、別の地域において、緊急時に頼りになるのは学区内の中学生です。東日本大震災時、岩手県釜石市の中学生が小学生を引き連れて避難し、避難所でも大きな力となったことはよく知られています。災害時に地域で動けるのは通学地域の広い高校生ではなく、私たち中学生です。

被災地を訪れ、被災した方々の気持ちを理解し、ふるさとのために何かをしようと考えている私たちは、「自分たちのふるさと自分たちの手で守る」という意識をもって、普段から防災活動をすることで、「自分の命は自分で守り、他人も助ける」ことが必ずできると活動を続けています。

地域で何か起こったとき、真っ先に体育館に避難してきた人たちを助け、休む場所を提供し、大人の方々が戻ってくるまでの間、炊き出しができる。このような力こそが、将来「社会に出てからも役立つ力」であると思います。

そのためにも、普段から友だちとのチームワークをよくし、いざというときには協力し合って、避難してきた人を助けられる中学生を目指しています。

《 中仙中学校 》

被災地復興応援訪問「中仙中学校3年(絆学年)の被災地での交流活動」 ～宮城県気仙沼市にて～

中仙中学校3年部主任 高橋 道幸

今回の訪問に先立ち、7月16日(火)に生徒会執行部8名と校長、生徒会担当の瀬田川、佐々木そして学年主任の高橋と12名で交流活動の打合せのため、気仙沼市の小原木中学校、各仮設住宅(小原木中学校仮設住宅、小泉中学校仮設住宅、天ヶ沢仮設住宅)を訪問し、当日の活動についての打合せを行った。



(小原木中図書室での打合せ)

(天ヶ沢仮設住宅での打合せ)

午後は、被災地の現状を知るためシャンティ国際ボランティア会気仙沼支部の三浦友幸さんの案内のもと、気仙沼沿岸部を視察した。そして、9月2日(月)～4日(水)の三日間、本校3年「絆学年」56名、校長、3年部職員4名、養護教諭の計62名で気仙沼市を訪問した。

一日目(2日(月))。前日に清水小学校の全校児童から預かった被災地への贈り物(しおり100枚)を携え、気仙沼に向けて出発した。11時頃、「唐桑ビクターセンター」に到着し、津波体験館で地震直後の気仙沼の様子を映像や写真で見て、改めて地震の恐ろしさを実感した。午後からは鹿折に到着し、案内人の方と合流し市内を見学した。「被災当時と比べると、がれきもなくなり土地が整備されてきたが、沿岸部のあちらこちらに地震や津波の爪痕が残っている。本当の復興までは、まだまだ時間がかかる。」とのことだった。午後8時頃、宿泊先の「気仙沼駅前コミュニティーセンター」に三浦さんをお招きして、映像を交えながら震災当時のお話や復興への思いを聞いた。



(内陸まで打ち上げられた第18共徳丸)



(津波で壊された小泉地区の橋)



(シャンティ国際ボランティア会三浦友幸さんによる講話)



二日目(3日(火))。午前中は小原木中学校を会場に、校庭に建てられた仮設住宅の方々二十数名をお招きして、「ヤートセ」「ロックドンパン」「吹奏楽部によるアンサンブル」などを披露した。このとき、抹茶のサービスも行い、「小原木中仮設住宅」のみなさんと交流した。

私は被災地を訪問して、初めて津波の怖さを知りました。仮設住宅の方々から津波の話聞いたとき、本当に恐ろしいなと思いました。震災を体験して、大変な思いをしたのに、仮設住宅のみなさんがとても明るくてすごいなと思いました。私たちは、被災地のみなさんに楽しんでもらえるようにと訪問したのに逆に元気をもらいました。お茶を渡したときに「ありがとう」とか「どうも」と言ってもらえて、とてもうれしかったです。

私は、今回の体験を忘れずに、これからの生活を送りたいと思います。

(鈴木友美)



(抹茶のサービス)



(吹奏楽部によるアンサンブル)



(ドンパン踊り披露)



(小原木中仮設住宅のみなさんとの交流)

午後からは、小原木中学校の生徒との交流を行った。小原木中学校は全校生徒36名の小規模校である。校舎が高台にあるため、学校は難を逃れたが、津波で家を流されて、隣の仮設住宅から通学している生徒もいると聞いている。震災を機に防災に対する意識が強くなり、特に海拔表示板を取り付けるプロジェクトなど、地域の方々の協力を得て独自の取組を行っている。また、平成24年11月22日～26日「ひょうご子どもサミット国際防災ミーティング」に生徒を派遣し、防災に対する自校の取組の成果について発表している。



(防災に対する小原木中の取組)



(海拔表示板の取り付けの様子)



(三重県から寄せられた応援メッセージ)

交流会では、両校の学校紹介を行った後、小原木中学校から全校生徒による「小原木ソーラン」を、中仙中学校が訪問生徒全員による「ロックドンパン」を披露した。ダイナミックで勇壮な「小原木ソーラン」の太鼓と舞には、本校の生徒、職員ともに圧倒された。「ロックドンパン」では、小原木中学校の生徒も一緒に踊るなど、大いに盛り上がった。その後の交流では、踊りの衣装を交換し合ったり、一緒に写真を撮ったりして充実した時間を過ごした。



(本校の生徒会執行部による学校紹介)



(ロックドンパンを踊る両校生徒)



(本校生徒と小原木中生が衣装を交換)

三日目(4日(水))。三班に分かれ、天ヶ沢、大谷小中、小泉中の三つの仮設住宅を訪問した。ここでも、「ヤートセ」「アンサンブル」を披露し、また、抹茶のサービスを行った。生徒たちは、直接被災された方々からお話をうかがうことで、新聞やテレビでは感じられない多くのことを学んだ。

三日目に天ヶ沢仮設住宅を訪問させていただきました。私は「ヤートセ」を踊りました。みなさんに楽しんでもらえてよかったです。また、アンサンブルを聴いて、気持ちが楽になりました。とてもうれしかったです。

仮設住宅のみなさんとの語り合いでは、みなさんから宮城県のよいところや郷土料理をたくさん教えてもらいました。また、秋田県のことも興味深く質問して下さってうれしかったです。

私は、自分で見た現状やみなさんから聞いたお話をまだ知らない人たちに伝えていきたいです。(三浦こころ)

私は、小泉中仮設住宅を訪問しました。仮設住宅のみなさんが私たちの踊りや演奏を見て「すごかった」などと言ってきて、とてもうれしかったです。また、仮設住宅のみなさんとお話したときに「犬が津波で流されてしまった。」という話が強く印象に残っています。私も犬を飼っているのですが、その話を聞いたとき、とても悲しくなりました。

私は今回の訪問を通してたくさんの方に笑顔になってもらえてよかったです。また、今回、見たり聞いたりしたことをいろいろな人に伝えていきたいです。(佐藤莉羅)

僕は、大谷小中の仮設住宅のみなさんと交流させていただき、とてもよい経験になったと思っています。仮設住宅のみなさんとは、秋田のことや、気仙沼のこと、ご家族のことや僕たちが披露したアンサンブル、ヤートセのことや震災当時のことなどいろいろな話をさせていただきました。会話をしているときにはつらそうな表情など見せず、明るくお話を下さっていることに驚きました。

僕は今回の訪問を通して感じたことを胸に、いろいろなことに挑戦していきたいです。(杉野 光)

仮設住宅を訪問後、大谷公民館に集まり、シャンティ国際ボランティア会の方々と共に、活動の振り返りをして昼食をとった。休憩後、公民館を出発。午後5時30分頃帰校した。三日間を通し、体調を崩す生徒もなく、本当に意義のある体験交流活動であったと思う。行き来のバスを提供していただいた大仙市及び交流学校等と連絡調整をしていただいた大仙市教育委員会、現地でお世話いただいた気仙沼市役所観光課主幹の齋藤英敏さんに感謝申し上げます。

『南三陸町で笑顔の花を咲かせよう！』

◆南三陸町視察研修(被災地の実際を学び、支援の方法を考える)

◇視察地 南三陸町、ベイサイドアリーナ(避難所となった体育館)、志津川小・中学校、仮設自治会館

◇研修内容

- ①南三陸町の現状見学(防災センター、旧魚市場、ベイサイドアリーナ)
- ②津波体験談を聞く(志津川小・中学校職員、仮設自治会会員)

<視察の様子>



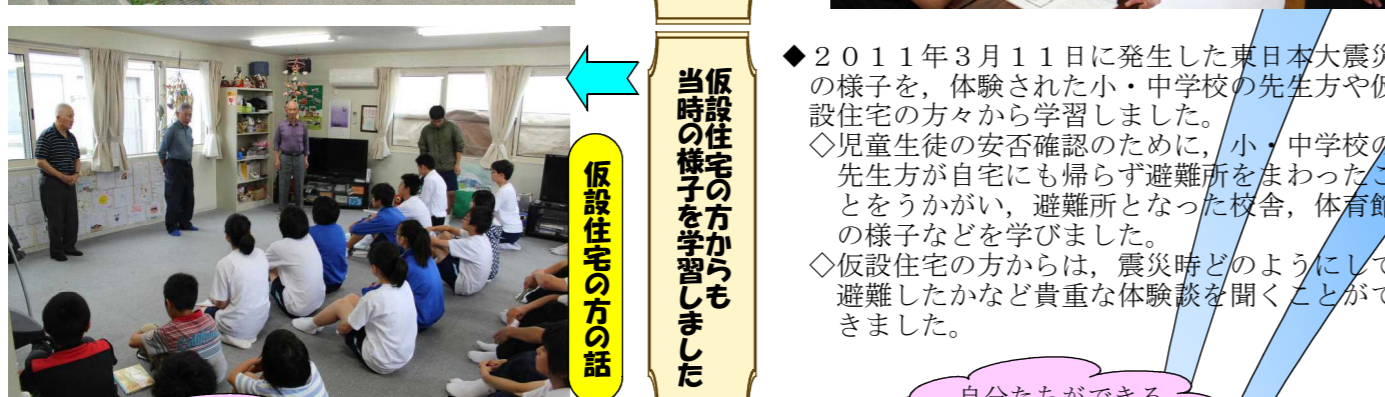
◆左の写真は志津川中学校から2007年に撮影した町の風景です。右の写真は今回の視察の際に同じ場所から撮影したものです。津波によって、町の状況が一変したことが分かります。



志津川小・中学校を訪問し
被災の様子を学習しました

志津川小学校

志津川中学校



仮設住宅の方からも
当時の様子を学習しました

仮設住宅の方の話

◆2011年3月11日に発生した東日本大震災の様子を、体験された小・中学校の先生方や仮設住宅の方々から学習しました。

◇児童生徒の安否確認のために、小・中学校の先生方が自宅にも帰らず避難所をまわったことをうかがい、避難所となった校舎、体育館の様子などを学びました。

◇仮設住宅の方からは、震災時どのようにして避難したかなど貴重な体験談を聞くことができました。

「風化」させないようにしたい!

笑顔になってもらいたい!

自分たちができることをしよう!

心の交流をしよう!

学習から考えたこと「笑顔を取り戻してもらおう!」

南三陸町で笑顔の花を咲かせる活動をしよう!

◆南三陸町訪問(心の交流をとおりて、笑顔の花を咲かせる)

◇志津川小…南外小から新米30kgを届ける ◇志津川中…義援金、メッセージカードの贈呈

◇仮設住宅の方との交流…炊き出し体験の実施、ヨサコイソーラン披露

<活動の様子>

志津川小・中学校への寄贈



南外中ソーランを見せて!

◆志津川小学校へは、南外小学校の学習田で取れた新米30kgを、志津川中学校へは文化祭や古紙回収の収益金から7万円を義援金として、さらに、メッセージカードを寄贈しました。

◆南外中がソーランを踊っていることを伝えると、ぜひ見せてほしいという話になり、急ぎょ踊りを見てもらうことになりました。

炊き出し体験の実施



仮設住宅の方へヨサコイソーラン披露



◆炊き出し体験として、あきたこまちの新米の「おにぎり」と「きりたんぼ」や「すいとん」をつくりました。新米のおにぎりやきりたんぼがおいしいと何杯もおかわりする方もいて、あっという間に無くなってしまいました。

予定外!
志津川中学校の生徒との交流も実現!



全校生徒の前で踊ることに!

◆志津川中学校の生徒から、自分たちも踊っているソーランを見たいという希望が出て、急ぎょ踊りを見てもらうことになりました。

◆アンコールがおきるほど盛り上がり、生徒会長にハッピーを贈って交流を終えました。

平成25年度の太田中学校の被災地支援・交流活動を紹介します

～岩手県大槌町立大槌中学校、大槌町仮設住宅のみなさんとの交流から～

支援・交流活動

① 6月5日(水) 1年生全員 「プランターを回収しよう」

前年度、大槌中学校仮設校舎に届けた250個のプランターを1年生全員が回収してきました。プランターは全てきれいに片づけられていました。大槌中学校のみなさんにも手をかけていただいたことに感謝しました。また、大槌町の見学もしました。被災前の大槌町の模型を見て、こんなにも津波の威力のすごさと甚大な被害があったことが実感できました。また、大槌中学校の先生からも被災当時のお話をうかがい、まだまだ1年生が知らないことがたくさんあり、被災地の方々が心を痛めていることも知ることができました。



② 7月11日(木)全校生徒と保護者 「東日本大震災・大津波

～陸前高田市からのメッセージ～
PTA親子講演会 阿部重人 先生
(元陸前高田市米崎中学校長)

元岩手県陸前高田市中学校長の阿部重人先生から東日本大震災当時のお話をうかがいました。米崎中学校での炊き出しの話、身内の方々が津波の犠牲になったことなど、心にぐっと響く辛いお話ばかりでした。私たちは被災された方のお話に耳を傾け、そのことを語り継いでいくことが重要であると認識しました。また、私たちの活動に御理解をいただき、今後も続けてほしいというメッセージもいただきました。



③ 8月8日(木)執行部と生徒有志 ～全校生徒が制作した「手作りうちわ」と ふれあいミニコンサートを開催しよう～

岩手県大槌町吉里吉里地区と和野地区の仮設住宅480軒に全校生徒が制作した「うちわ」を届けました。また、今回は本校卒業生が制作した手作り風鈴100個も併せて届けました。

初めて地域内3小学校とその保護者にもボランティア隊の紹介をしたところ、中学生と小学生、その保護者、高校生などが集まり総勢74名の「太田ふれあい隊」となりました。これまで訪問していた吉里吉里、和野の仮設住宅1軒1軒にうちわと風鈴を届け、さらに小学生と中学生で編制した吹奏楽の演奏を加えて住民の方々に聞いていただきました。あらかじめコンサートの案内をチラシとポスターで行っていたため、コンサートの開催を待ちわびた多くの住民の方々が待っていました。「花は咲く」「ふるさと」「世界に一つだけの花」など一緒に歌いながらコンサートは盛り上がりました。直接住民の方々とふれあうチャンスがまた増え、有意義な交流ができました。



④ 8月30日(金) 2年生全員 「大槌に色彩を届けよう Part3」

1年生が6月に回収してきたプランターに再び赤いベゴニアを植え、大切に育てました。そして地域の方々の協力を得て、2年生全員が大槌中仮設校舎に届けました。

大槌中2年生との贈呈セレモニーや合唱・エール交換をしました。共にプランター運搬作業をしながら会話をする中で、色彩のない仮設校舎が彩り豊かになったことを喜ぶ声を聞くことができ、大変ありがたく思いました。



⑤ 10月6日(日) 学校祭に大槌中生徒会12名招待

大槌中生徒会執行部の招待が3年目となる今年も、12名を学校祭にお招きしました。前日から太田入りしていただき、打ち合わせを行いました。当日はオープニングセレモニーを共催し、本校生徒による合唱披露や3年生による「よさこい踊り」の披露がありました。これまでになく盛り上がりのあるセレモニーとなりました。また、太中祭そのものを楽しんでいただき、お互いにエールを交わして激励し合い、再会を約束しました。



⑥ 10月26日(土) 大槌中学校の文化祭に 3年生56名が参加 ～太田のお米800kgと太田地域3小学校からの メッセージカードを届け、歌と踊りを披露～

大槌中学校の文化祭に3年生56名が参加しました。文化祭の開祭式では、最初に大槌中学校の鈴木利典校長先生が「本日の文化祭には、保護者と一緒に震災直後から本校にさまざまな支援をしていただいている、秋田県大仙市の太田中学校3年生の皆さんがかけつけてくださいました。仮設校舎を彩っているプランターの花は太田中学校のみなさんが持ってきてくださったものです。本日は歌も披露してくださいます。楽しみです。」と紹介してくださいました。続いて、大槌中学校生徒会長の兼澤颯君が、倉田翔君をステージ上に招き入れ、「震災直後から唯一街ぐるみで継続して支援をしてくださっている秋田県大仙市太田町の太田中学校3年生の皆さんがおいでくださいました。」と紹介・握手をし、倉田翔君が「今日の文化祭を楽しみにしてきました。今日は太



田でとれたお米800kgと太田地域の小学生が書いたメッセージカードも持ってきました。」とあいさつをしました。会場のみなさんからは温かい拍手がおくられました。

大槌中学校生の合唱の後に、太田中学校3年生の発表が行われました。各クラスの合唱と「よさこい」を披露しました。「よさこい」を踊った後には会場からアンコールが起こり、大槌中学校の3年生数名がステージに上がり、一緒に踊ることに・・・最高に盛り上がりました。そのあとは大槌中学校名物の全校生徒によるエール。ものすごい迫力でした。それに負けないよう鈴木悠大君が先頭に立って煌輝学年56名によるエール。岩手県の大中と秋田県の太中の絆がより深まった瞬間でした。エール交換の後、倉田翔君から米と小学校からのメッセージカードが大槌中学校生徒会長の兼澤颯君に手渡されました。兼澤颯君からは「これからも大槌中学校と太田中学校の絆をもっと深めていきましょう。太田中学校のみなさん、ありがとうございました。」とお礼の言葉をいただきました。文化祭に参加した後は、大槌中学校仮設校舎へ移動し、8月に2年生が運んだプランターの後片付けをしました。





2013大仙市中学生サミットのロゴマーク。
「大仙市の未来は私たちがつくる」という
キャッチフレーズをデザインしたもの。
(事務局校：西仙北中学校 生徒作成)

平成25年9月17日(木)～18日(金)

「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業 避難所開設訓練」
会場・平和中学校



平成25年10月31日(木)
「大曲中学校地域合同防災訓練」



